

◇-----◇  
下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2011. 11. 28

下水道機構の『新技術情報』 第23号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

◇-----◇

先週は、沖縄へ行って参りました。沖縄到着時の気温は28度！あまりの暑さに冷房をつけてしまいました。沖縄の青い海と青い空の後の、東京の寒さと満員電車は身にこたえ、ボケボケな週明けです。

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第23号をお届けします。

業務に、Tea Breakにご活用ください。

■□■■□トピックス□■■□■

★インフォメーション

- ・11月15日に平成23年度の第2回水処理新技術実用化評価委員会が開催され、初回報告：1件、中間報告：1件、最終報告：1件の合計3案件について技術の審議が行われました。
- ・11月17日、平成23年度第2回汚泥処理新技術実用化評価委員会（委員長：北海道大学船水教授）が開催されました。

★機構の動き

- ・今週は、新技術現場研修会(場所：東京都清瀬水再生センター、テーマ：「汚泥ガス化炉」)が開催されます。

★Tea Break

- ・アメリカ人はおしゃべり (機構職員 匿名希望さんからの投稿です)

★みなさまからのコラム

- ・掲載情報募集中！

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

★国からの情報

- ・11月24日付け下水道ホットインフォメーションです

-----  
インフォメーション (最新の話題です)  
-----

●11月15日に平成23年度の第2回水処理新技術実用化評価委員会が開催され、初回報告：1件、中間報告：1件、最終報告：1件の合計3案件について技術の審議が行われました。

今回は、馴致運転中のNADHセンサーを用いた風量制御による窒素除去法で実証運転確認中の福岡市東部水処理センターの実証設備視察も兼ねて、現地処理場の管理棟会議室で委員会を行いました。

最初に、東京都との共同研究である「雨水吐口付近に設置可能なコンパクトな合流改善技術に関する実用化研究」について審議が行われました。本研究は、前回の委員会で新規性が認められたことを受け、実用化研究に着手するものです。今回の委員会では、主として実験計画について審議が行われ、模擬雨水の考え方等、実験内容について様々な角度から議論が行われました。今後は、今回の委員会での指摘事項を踏まえて実験計画を充実させるとともに、平成23年度中に実験装置の製作・設置を行い、平成24年度に各種実証実験を行う予定となっています。本審議内容については、12月の技術委員会に報告する予定です。

次に、「川崎市等々力水処理センター高度処理技術（担体利用酸素循環式硝化脱窒法+脱窒ろ過法）に関する評価」について最終審議が行われました。等々力水処理センターにおいて、平成22年6月末～平成23年6月末の期間でパイロットプラントを利用した実証実験を行った結果を報告し、高度処理方式「担体利用酸素循環式硝化脱窒法+脱窒ろ過法」は、設定した計画放流水質（BOD;10mg/l、COD;14mg/l、T-N;6mg/l、T-P;1.0mg/l）に適合していると評価できること、また評価報告書案について確認を行いました。本審議内容については、12月の技術委員会で最終報告する予定です。

最後に、中間報告として、福岡市との共同研究である「NADHセンサーを用いた風量制御による窒素除去法に関する実用化研究」について審議が行われました。本研究では、東部水処理センターにおいて平成23年12月～平成24年12月の期間で実証運転を行う予定であり、現在行っている馴致調整運転の状況、評価項目、今後の運転方法等について報告されました。審議の結果、実証運転を進めることとなりました。本審議内容については、12月の技術委員会で報告する予定です。

●11月17日、平成23年度第2回汚泥処理新技術実用化評価委員会（委員長：北海道大学船水教授）が開催されました。

議題は、

- (1)「清瀬水再生センターにおける汚泥ガス化炉施設の性能評価に関する共同研究」
- (2)「小規模下水汚泥の燃料化システムに関する実用化研究」の2議題です。

(1)に関して、主にシステムから発生する温室効果ガス発生量が性能評価項目ですが、今回は昨年11月からの約1年間の本格運転の実績報告を行いました。その結果を基に最終的な性能評価の方向性について議論しました。

(2)に関して、今回が最終報告となりました。委員会の最終評価として、本技術の特徴として、化石燃料を使用せずに未利用バイオマスを活用して下水汚泥の燃焼・減量化が達成できたとして「経済性がある」、「温室効果ガス削減効果がある」という評価を得ることができました。

---

機構の動き (機構の行事予定です)

---

◎11月29日(火) 13時30分(集合時間)～16時30分

新技術現場研修会(場所：東京都清瀬水再生センター、集合場所；西武池袋線清瀬駅 北口ロータリー西友前、テーマ：「汚泥ガス化炉」)

◎12月6日(火) 14時～17時

平成23年度第2回技術委員会(場所：機構8階特別会議室)

---

Tea Break (機構職員の感じるまま)

---

●アメリカ人はおしゃべり (機構職員 匿名希望)

先日ロサンゼルスに学会発表のため出張に行ってきました。

アメリカに行く度に感じることもある。彼らは超愛想が良いし、おしゃべり上手である。目が合えばエレベーターの中でもどこでもニコツとして「Hallo!」と声を掛けてくれる。当然私も「Hallo!」と応えてとても楽しい気分になる。日本ではほとんど無い習慣である。ホテルから学会会場に行く送迎バスに乗ると知らない者同士でもすぐにおしゃべりが始まっている。むちゃくちゃバスの中が賑やかである。寸暇を惜しんでおしゃべりしている感じがする。これも日本では無い習慣である。私の隣にも人が座ったが、私が英語のしゃべれない日本人だとわかったのか通路を挟んだ隣の人とおしゃべりを始めた。これには少々ショックだった。みんなが楽しくおしゃべりしているのに自分。。。とっても取り残された感じだった。学会会場でもそうだ。議論が尽きない。それぞれ色んな意見を言っている。英語を自由に操れないという自分の能力の低さもあるが、根本的に彼らとのコミュニケーション能力の違いもあると思う。見習うべき文化だと思う。

しかし、英語をもっと自由に扱えればもっと楽しい世界があると再度実感した。是非とも手に入れたいツールである。

---

みなさまのコラム (皆様からお寄せいただいた情報です)

---

●掲載情報募集中！

機構の新技术情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

情報提供はこちらまで→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

※原則 400 字以内。なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としていますが、掲載の可否は当機構にて判断させていただきます。

---

下水道ホットインフォメーション（2011.11.24 付、国からの最新情報です）

送信元：国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課企画専門官 石井宏幸

---

今日も下水道工事で1名、作業員がマンホールに転落して亡くなりました。ここ数ヶ月、死亡事故が続いてます。毎年、正月にとある神社へ工事安全祈願へ行っているのですが（当然、ポケットマネーで私的に）、今年はあまりご利益がないようです。

祈願料が少ないのか、それとも参拝する人が悪いのか・・・？

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

- 2次一括法の国交省関係政令が閣議決定されました！【下水道企画課】
- 復興支援の下水道モデル事業調査がスタート【下水道企画課】
- 提言型仕分け「中長期的な公共事業のあり方」の結果について【下水道事業課】
- 「長期的な改築需要量見込み」の試算を依頼しました【下水道事業課】

=====

○2次一括法の国交省関係政令が閣議決定されました！【下水道企画課】

標記政令について、11月22日（火）に閣議決定されました。

この政令には、下水道法施行令の改正も含まれており、以下の内容となっております。

なお、本政令中下水道法施行令関係部分は、11月28日（月）に公布し、平成24年4月1日に施行されます。また、関係省令及び関係告示の改正については、今年度内の早い段階での公布を目処としております。

改正概要は以下のとおり。

公共下水道及び流域下水道の構造の技術上の基準並びに終末処理場の維持管理の基準については、公共用水域の水質の保全の観点から最低限統一的基準を定めることが必要な排水施設の構造の基準のうち、雨水吐に係るもの（下水道法施行令第5条の4）及び処理施設の構造の基準のうち放流水の水質に関するもの（同令第5条の5）

を除き、条例の制定において参酌すべき基準とします。なお、基準の内容については、従来の基準を踏襲しております。

本政令関連資料は国土交通省HP（下記URL）にて公表しております。

[http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10\\_hh\\_000082.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10_hh_000082.html)

○復興支援の下水道モデル事業調査がスタート【下水道企画課】

下水道地震・津波対策技術検討委員会「復興支援スキーム検討分科会」（座長：大村達夫 東北大学大学院教授）では、復興支援に関する下水道モデル事業調査として、気仙沼市と仙台市を対象に実施することとしていますが、11/21（月）、気仙沼市にて第一回現地会議が開催されました（事務局：国土交通省<株>メタウォーター、(社)日本下水道協会）。会議には、同分科会の座長のほか佐藤弘泰東京大学准教授も出席されました。午前中は、気仙沼終末処理場などの応急復旧状況につき現地調査を行い、午後は、今後の進め方や復旧、復興を連続的に捉えた時系列のシステム構築のイメージにつき意見交換がなされました。会議の冒頭には菅原茂市長も出席され、「国土交通省、宮城県、大学などの協力に感謝している。気仙沼市では、復興においてエネルギー問題への取り組みに重点を置いており、この復興調査チームが最適解を出して頂けるものと信じている。」との期待のコメントがございました。

○提言型仕分け「中長期的な公共事業のあり方」の結果について【下水道事業課】

22日、行政刷新会議の「提言型政策仕分け」で「中長期的な公共事業のあり方」が評価されました。

論点の一つ「既存ストックの維持管理・更新をどのようにして効率的に行っていくのか」については「民間資金の一層の活用を図るとともに、重点化や長寿命化を図りつつ、見通しを立てた計画的な更新を行うべき」との提言がなされました。

詳細は下記URLをご覧ください。

<http://sasshin.go.jp/shiwake/detail/2011-11-22.html>

○「長期的な改築需要量見込み」の試算を依頼しました【下水道事業課】

9月にとりまとめ・公表した「下水道施設のストックマネジメント手法に関する手引き（案）」で、今後の長期的な改築需要量の見込みを試算する方法を示しています。11月22日付で、本手引き（案）に示している方法で試算していただくよう、各地方公共団体に依頼しました。本年度末を目途にとりまとめる予定です。

=====

【参考情報】

◆横浜市の下水汚泥焼却灰問題、コンテナ保管方式について住民に説明 <11/18  
MSN 産経ニュース>

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/111118/kng11111822510008-n1.htm>

◆高崎の下水汚泥 半年ぶりに処理再開 埼玉のセメント企業に搬出 焼却せず脱水  
状態で <11/19 東京新聞>

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/gunma/20111119/CK2011111902000094.html>

◆焼却灰仮置きにコンテナ導入へ 横浜市、2施設で /神奈川 <11/19 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/kanagawa/news/20111119ddlk14040323000c.html>

◆千葉市中心部の浸水被害防止 中央雨水ポンプ場が完成 <11/20 千葉日報>

<http://www.chibanippo.co.jp/c/news/local/65295>

◆下水汚泥の焼却灰、処分進まず セシウム検出、住民反発 <11/20 朝日新聞>

<http://www.asahi.com/national/update/1120/TKY201111190622.html>

◆洛西浄化センター汚泥100%リサイクルへ 府方針 <11/21 京都新聞>

<http://www.kyoto-np.co.jp/politics/article/20111121000100>

◆被災の土地、高く買い上げへ 復旧想定し算定、移転促す <11/24 朝日新聞>

<http://www.asahi.com/national/update/1124/TKY201111230573.html>

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方は

こちらから→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせは

こちらから→ [jiwet@jiwet.or.jp](mailto:jiwet@jiwet.or.jp)

